

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(解答は全て句読点、記号も一字に含める。)

人間は言葉のなかに生まれてきて、言葉によって育つてゆくのだということに、みずからよくよく思いをひそめないと、人間はとんでもない勘違いをすることができなくなけません。そのことに自覚的でないと誤るのです。物はゆたかになり、生活はゆたかになり、^aくらしぶりも落ち着いてきて、ずいぶん不自由もなくなった。にもかかわらず、たった一つ、今の日本でゆたかでないものがあります。ゆたかでないものは何でしょうか。わたしたちにとって今いちばんゆたかでないものは、言葉です。言葉がゆたかでありません。

言葉というのは、人によって異なるものでなく、だれにとつてもおなじものです。みなおなじということでは、^①言葉は平等なのだけでも、人と人を違えるのも言葉です。言葉をゆたかにできる人と乏しく^bしてしまう人とを、言葉は違えるからです。

大事なのは言葉で自分を表現することだ、とだれもがそう思っていますし、そう言われています。言葉を A と見なせばそうですが、実際は違うのです。問われるのは、言葉で自分をどうゆたかにできるか、ではなく、自分は言葉をどうゆたかにできるか、なのです。

言葉のゆたかさというのは、^②たくさんの言いまわしをあれこれ揃^{そろ}えることではありません。美^③麗^④は言葉のゆたかさを意味しないのです。そうでなく、むしろ限られた言葉にどれだけ自分をゆたかに込められるかが、言葉にとつては重要なのです。

言葉のゆたかさとは、どういう自分であるかを語ることができる、みなおなじなかでおたがいがどうという人間であるか、おたがいにどういうふう^④に違っているかをすすんで語ることができる、そういうゆたかさにはほかなりません。日常に普通にある言葉を、どのように使うか。言葉は、それがすべてだからです。

言葉というのは、言葉の使い方の問題です。自分がどういう言葉をどう使うか、その言葉のなかに自分をどう表してゆくか、それができるか、できないかが、^⑤これからは社会のいちばん重要な^{おも} 鍾^{かね}となつてゆくようになるのではないかと思うのです。

わたしたちにとつての言葉のあり方について、誤解をひろげてきた一つは外国語に対する考え方です。受け入れられやすいのは、ある国を理解したりその国の人と親しくするには、その国の言葉ができなければだめだという考え方ですが、果してそうでしょうか。

市民の一人一人の親しみのもち方というのは、実際には、しかしそういうふうではありませんし、ありえませんが、その言葉を知らない国に旅することはむしろ普通なことですし、たとえ国がおなじであっても、地方によって、それぞれの言葉がまったく違って、わからないくなつても当然だからです。

ほとんどの外国語は覚えることがまずないのが、普通です。言葉がわからなくてデンマークを旅する。言葉がわからなくてベリーズを旅する。そうであつて、たった一つ、どんな国、どんな地方にも、共通するものがあります。身ぶりです。言葉の意味はわからない。しかし、怒っているか、笑っているか、悲しんでいるか、話したくないか、^cフキゲンか、おもしろくないかは、その場においてわかるし、伝わります。笑顔は、笑顔です。

言葉がわからなければ、話せないのではないのです。どの国でも、怒っているときには怒つてるように話すでしょうし、「なんだこのやろう」というときは、イタリアでもカザフスタンでも「なんだこのやろう」という話し方で話すでしょう。「ああ悲しい」という思いを込めるときは、日本語を話す人もインドネシア語を話す人も、その思いを話し方に込めるでしょう。

言葉はわからない。しかしその人は、今悲しいのだと理解できる。言葉はその言葉のもつ意味だけでなく、その言葉のもつ身ぶりを表し、そして身ぶりはもとの言葉よりもずっとひろく共通の了解をつくりだします。

自分が表したいということ自分の言葉で話す。そうであれば、^⑥その言葉を知らなくとも、おたがいのあいだで、^dおおよそ伝わるものは伝わるし、^e伝えられるということです。何もかも理解しなければならぬというのは、逆にしばしば^dサケがたい誤解を生みやすいのです。

外国の言葉について、その言葉をべらべら話せるようにならなければという^eシャクドは、間違っています。英語は苦手中の苦手だという人が、初めてアメリカに行った。そして帰ってきたときに会ったら、^⑦感に堪えないというふう^eに、アメリカでは赤ん坊まで英語を話している、と言った。日本では英語を話せることは才能のように考えられています。しかしアメリカに行けば、赤ん坊だつて上手に英語を話す。そう言うなら、スペインに行けばスペインの子どもがスペイン語を、ノルウェーに行けばノルウェーの子どもがノルウェー語を、信じられないほど上手に話すということになります。

しかし、母語は才能ではないのです。ひとはその言葉のなかに生まれるのであり、どんな赤ん坊でも、才能のあるなしにかかわらず、

その言葉を話すようになります。

言葉というのは習慣、もしそう言ってよければ、文化の習慣なのです。

ところが、大きくなってから異なる国の言葉を学ぶときは勉強して学び、その言葉に熟達するようになることは勉強の成果となる。そうこうして、言葉とはそういうものだというふうに、つい勘違い⑨してしまう。そのため、ややもすると自分^⑧は言葉によって育てられたという思いを、Bに対してすらもたなくなってしまうかもしれない。逆に、異国語に対しては、その言葉を勉強するのは面倒だ、厄介だという感じを、C 簡単にもつようになってしまいかもしれません。

長田弘『読書からはじまる』 (日本放送出版協会)

問一 傍線部 a e のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みを平仮名で答えなさい。

問二 傍線部①「言葉は平等」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 誰もが言葉を使うことができる。

イ 単語の意味は統一されている。

ウ 言葉を学ぶ自由は保障されている。

エ 文章の解釈に差異はない。

問三 空欄 A に入る最も適当な表現を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人間の恋人 イ 人間の友人 ウ 人間の家来 エ 人間の主君

問四 傍線部②「言いまわし」を用いた表現として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 言いまわしがくだい イ 言いまわしがにぶい ウ 言いまわしがはやい エ 言いまわしがもろい

問五 傍線部③「美麗」の空欄に、それぞれ適切な漢字一字を入れて四字熟語を完成させなさい。

問六 傍線部④「日常に普通にある言葉を、どのように使うか」とはどういうことか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 言葉で自分を表現することが、どれくらい大事なのか、ということ。

イ だれにとっても同じ言葉を、どう違う形にしてゆけるか、ということ。

ウ 外国の言葉を、どれだけ思いのままに操ってゆけるか、ということ。

エ 限られた言葉にどれだけじんを込められるか、ということ。

問七 傍線部⑤「社会のいちばん重要なつづとなつてゆく」のは何だといえるか。本文中から七字で抜き出して答えなさい。

問八 傍線部⑥「その言葉を知らなくとも、おたがいのあいだで、おおよそ伝わるものは伝わるし、伝えられるということですよ」とは、何が伝える役目を果たすというのか。本文中から十字で抜き出して答えなさい。

問九 傍線部⑦「感に堪えない」の言葉の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 深く感動する イ 深く落胆する ウ 深く納得する エ 深く嘆息する

問十 傍線部⑧「勉強の成果」と、本文中で反対の意味となる表現は何か。本文中から過不足なく抜き出して答えなさい。

問十一 傍線部⑨「勘違い」を防ぐためにはどうあるべきだと、筆者は考えているか。「であるべきだ」に続く形で本文中の言葉を用いて四十文字以内で答えなさい。

問十二 空欄 B にあてはまることばを、本文中の漢字二字で答えなさい。

問十三 空欄 C には波線部「ややもすると」とほぼ同じ意味の表現が入る。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア すべからく イ ともすれば ウ あらかじめ エ こころおきなく

本文の概要と、解答・解説をよく読み、理解を深めて下さい。幅広く準備することが必要になります。

《本文の概要》

物は豊かになり、生活は豊かになり、暮らしぶりも落ち着いてきて、ずいぶん不自由もなくなった。にもかかわらず、たった一つ、今の日本でゆたかでないものがある。

私たちにとって今いちばんゆたかでないものは言葉である。私たちは日本という国に生まれたと思っているが、そうではなく、日本語という言葉のなかに生まれてきたのだ。

言葉というのは習慣、いふなれば文化の習慣なのだ。

言葉は平等なのだが、人と人を違えるのも言葉である。言葉をゆたかにできる人と乏しくしてしまう人とを、言葉は違えるからだ。そこで問われるのは、言葉で自分をどうゆたかにできるか、ではなく、自分は言葉をどうゆたかにできるか、なのだ。

日常に普通にある言葉を、どのように使うか。言葉はそれがすべてなのだ。

【解答】

- 問一 a 暮 b とほ c 不機嫌 d 避 e 尺度
問二 ア 問三 ウ 問四 ア 問五 美辞麗句 問六 エ
問七 言葉のゆたかさ 問八 その言葉のもつ身ぶり 問九 ア
問十 文化の習慣 問十一 言葉のなかに生まれ、言葉によって育つ
問十二 母語 問十三 イ

【解説】

問一〈漢字〉 a. 訓読みは「く(ら)す」「とく(く)れる」「音読みは「歳暮」などの「ボ」。 b. 音読みは「欠乏」などの「ボウ」。 c. 機嫌が悪いと。 d. 音読みは「避難」などの「ヒ」。

e. 物事の評価の基準になるものこと。

問二〈文章内容〉言葉は「人によって異なるものでなく、だれにとってもおなじもの」である。みな「おなじ」言葉を使うことができるという意味で、「平等」だといえる。

問三〈文章内容〉「言葉で自分を表現する」というときには、言葉は自分を表現するための道具だと考えていることになる。道具とは、人間がある目的のために自分の思うように使うものである。

問四〈語句〉「言いまわし」は、いい表し方のこと。

問五〈四字熟語〉「うわべを巧みに美しく飾った言葉のこと」を「美辞麗句」という。

問六〈文章内容〉「日常に普通にある言葉を、どのように使うか」が、「言葉のゆたかさ」である。「言葉のゆたかさ」とは、「たくさん言いまわしをあれこれ揃えること」ではなく、「限られた言葉にどれだけ自分をゆたかに込められるか」ということであり、それが言葉にとつては重要である。

問七〈文章内容〉「社会のいちばん重要な鍵となってゆくようになる」と考えられるのは、「自分がどう言葉を使うか、その言葉のなかに自分をどう表してゆくか、それができるか、できないか」である。それは、「限られた言葉にどれだけ自分をゆたかに込められるか」ということであり、「言葉のゆたかさ」のことである。

問八〈文章内容〉「その言葉を知らなくとも、おたがいのあいだで、おおよそ伝わるものは伝わり、伝えられる」のは、言葉の表すものが「その言葉のもつ意味」だけではないからである。言葉は、「その言葉のもつ意味」だけでなく、「その言葉のもつ身ぶり」をも表し、「その言葉のもつ身ぶり」は、「もとの言葉よりもずっとひろく共通の了解」をつくり出すのである。

問九〈慣用句〉「感に堪えない」は、深く感動するさまをいう。

問十〈文章内容〉「大きくなってから異なる国の言葉を学ぶとき」は「勉強して」学ぶ。そのため、「言葉に熟達するようになる」と「が、勉強の成果」の表れであるように見える。しかし、誰でも「才能のあるなしにかかわらず」「母語を話すこと」からわかるように、「言葉とは」「文化の習慣」なのである。

問十一〈文章内容〉「異なる国の言葉を学ぶとき」には「勉強して」学ぶため、「言葉に熟達するようになる」と「は」勉強の成果」の表れのように見える。しかし、誰でも母語を話すことからわかるとおり、「ひとはその言葉のなかに生まれる」のであって、言葉に熟達するのは「勉強の成果」ではない。それを「勉強の成果だと思ってしまう」勘違い「は、」人間は言葉のなかに生まれてきて、言葉によって育つてゆくのだ」ということ、みずからよくよく思いをひそめないう「とき」に生じているのである。

問十二〈文章内容〉誰でも才能のあるなしに関わらず母語を話すようになるのに、言葉の熟達は「勉強の成果」であるかのよつに「勘違い」しやすい。そういう「勘違い」をすると、「人間は言葉のなかに生まれてきて、言葉によって育つてゆくのだ」と「を」母語に「関しても考えられなくなる可能性がある」。

問十三〈語句〉「ややもすると」「は」ややもすれば「ともいひ、」ともすれば「とほほ同じ意味で用いられる」。